九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Economic Development and International Financial Trilemma in Central Asian Countries

カリシバエフ，ジャスル

https://doi.org/10.15017/1543926

出版情報：九州大学，2015，博士（経済学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	Jasur KARSHIBAEV（ジャスル　カリシバエフ）
論　文　名	Economic Development and International Financial Trilemma in Central Asian Countries (中央アジア諸国における経済発展と国際金融のトリレンマ)
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教　授　岩田 健治 副　査　　九州大学　　教　授　清水 一史 副　査　　九州大学　　准教授　加河 茂美

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本論文は、中央アジア諸国が、1990 年代以降の市場経済への移行過程で、どのような国際金融制度を選択してきたのか、またそうした選択がこれら諸国の経済発展戦略（一次産品輸出依存型発展あるいは輸出指向工業化型発展）とどのような関係にあったのかについて考察を行っている。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第１に、90 年代以降の中央アジア諸国の資本移動自由化の動きを、各国の関連法制を用いた独自の指標により系統的に解明した点である。第２に、①自由な資本移動、②為替相場の固定、③金融政策の自立性は同時成立しないという「国際金融のトリレンマ」論の視点から、②を放棄し①と③を追求してきたカザフスタン等の諸国と、②をとりわけ重視し慎重に①を推し進めてきたウズベキスタンとに明確に区分できることを明らかにした点である。第３に、国際金融制度選択におけるこうした違いが、各国の経済発展戦略と相互に密接に関連している点を明らかにした点である。

全体として本論文は、1990 年代以降、市場経済化を進めた中央アジア諸国において、輸出指向工業化戦略を推進する国と一次産品の輸出に依存する国とが併存しており、そうした経済発展戦略の相違が国際金融制度上の選択と相互補完的関係にあったことを定性的・定量的に解明している。また原油価格下落などの影響により、エリア全体が輸出指向工業化戦略に収斂しつつある中で、それを支える新たな域内通貨協力の必要性を指摘している。こうして本論文は、途上国における国際金融制度の選択を巡る研究に、新しい知見をもたらしているものと評価できる。

国際金融制度の選択と当該国の経済発展戦略との間のより具体的な関連付けや、2008 年の世界金融危機の影響の分析など、一層の解明が望まれるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、中央アジアにおける経済統合研究の脈絡の中で、今後鋭意追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、Jasur KARSHIBAEV 氏より提出された論文 Economic Development and International Financial Trilemma in Central Asian Countries を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。